

## 平成 27 年度 政務活動費 先進都市調査報告書

会派名	市民ネット・むろらん
議員名	水江一弘・児玉智明・佐藤潤・小田中稔・高橋直美・立野浩靖
調査実施年月日	平成 28 年 2 月 16 日(火)
調査先 自治体名等	長野県小諸市
調査項目	「持続可能な活力あるコンパクトシティ小諸の再構築」について
調査目的	本市に於けるコンパクトシティ実現可能性への調査研究
報告内容 実施したこと	<p>1 視察先(市町村)の概要</p> <p>人口: 43, 299 人(H26. 4. 1現在) 行政面積:98, 66 km<sup>2</sup></p> <p>2 視察内容</p> <p>小諸市は北国街道、中山道、甲州街道が集まる立地条件から、商業を中心に城下町・宿場町として栄えてきた歴史がある。しかし、長野新幹線の開通や車社会の進展により、商業施設の郊外化や、それに伴う空き店舗数の増加などにより、中心市街地の空洞化が進んだ。また、昭和39年に建築された市庁舎も老朽化が激しく、耐震基準も満たしておらず、建て替えが喫緊の課題として浮上した。さらに、昭和35年に開設された厚生総合病院も建物の老朽化に加え、医師不足も相まって小諸市から撤退する可能性が指摘されていた。これらのことから、平成21年7月の地区懇談会や市民報告会を皮切りに、様々なレベルでの話し合いを重ね、平成24年に厚生総合病院も含めた市役所敷地一体での整備方針が決定された。そして平成24年10月17日には、市役所敷地での、市庁舎、小諸厚生総合病院の併設再構築計画実施を市長が表明し、さらに図書館とコミュニティスペースを中心とした複合的な施設も併せて整備するとした。平成25年3月15日には「第1期低炭素まちづくり計画」を作成し、国の都市再生整備計画事業に採択され、病院施設、図書館施設に50%の補助金交付が決定された。さらに、厚生病院の建設に市が独自に30億円を拠出することにより、戦略的にインフラマネジメントを実施した。このことにより、市役所を中心としたコンパクトシティを実現し、第10回まち交大賞 創意工夫大賞も受賞している。また、平成27年12月には市長宛に議長名で「コンパクトシティ構想による中心市街地の活性化に向けた提言書」が提出されている。そして、中心市街地と周辺市街地を結ぶ地域公共交通手段として、デマンド型でコミュニティバスを運行し、小諸市が目指す持続可能なまちづくりをとおして、「住みたい、いきたい、帰ってきたい まち 小諸」を実現している。</p>

<p>感想（まとめ） 本市へ生かせること等</p>	<p>小諸市の取り組みは、本市に於ける今後の公共施設再構築のあり方に参考となる事例である。しかし、本市の歴史的な経緯からみても、公共施設の集約化は、非常に困難を極める事業だともいわざるを得ない。人口減少社会に対応するためにも、コンパクトなまちづくりは欠かせないコンセプトの一つではあるが、地域の実情や歴史を無視することは避けるべきである。</p> <p>災害時等の指示連絡体制や避難場所等の問題も含めて、市役所庁舎の建て替えもタブー視せずに議論すべき時期に来ている。そしてそれに合わせて、将来を見据え、室蘭として、どんなコンパクトシティを目指すのか、まち全体を俯瞰する新たなコンセプトを示すことこそが求められていると考える。</p>
-------------------------------	--